

## 江文神社 -社殿

もともとは平安時代の終わり（794-1185）に建設された江文神社は、大原村の守護神ウガノミタマノミコトが住み、地域を監視する場所です。

石灯籠に囲まれた短い階段を上ると、神社は3つの主な建物で構成されています。左の建物は日本の火の神である火産霊（ほむすび）に捧げられており、右端の建物は風の神であり神道の最も古い神の一人である風神を称えています。

中央の建物は3つの中で最も大きく、食料と農業に関連する古典的な日本神話の神であるウカノミタマに捧げられています。ウガノミタマの神という名前は、「倉庫の米の精神」という意味があります。

江文神社は、伝統的な月日数である30日間のそれぞれの名前に使用される「神」が宿る全国30の神社の1つでもあります。この慣例は平安時代に天台仏教で発展し、江文の神は毎月8日目を表す神です。

敷地内につながる狭い道にある小さな神社をはじめとする、方向の神に捧げられた小さな神社など、敷地内と周辺には多数の小さな神社があります。神社のすぐ後ろには江文山があり、香川県の巡礼者に人気の金比羅山に例えられています。以前の神社は、江文山の斜面に広がる森のさらに奥にありましたが、地元住民がよりアクセスしやすいように現在の場所に移されました。